

学校運営協議会だより

文責 CSコーディネーター中村

回
覧

学校運営協議会だよりNO11では、第2回学校運営協議会の様子をお伝えしました。NO12では、「学校評価」について説明したいと思います。さらに、第2回学校運営協議会で行われた各学校の前期学校評価(学校関係者評価)の一部結果も紹介したいと思います。

■学校評価とは 文部科学省ホームページより

学校評価について

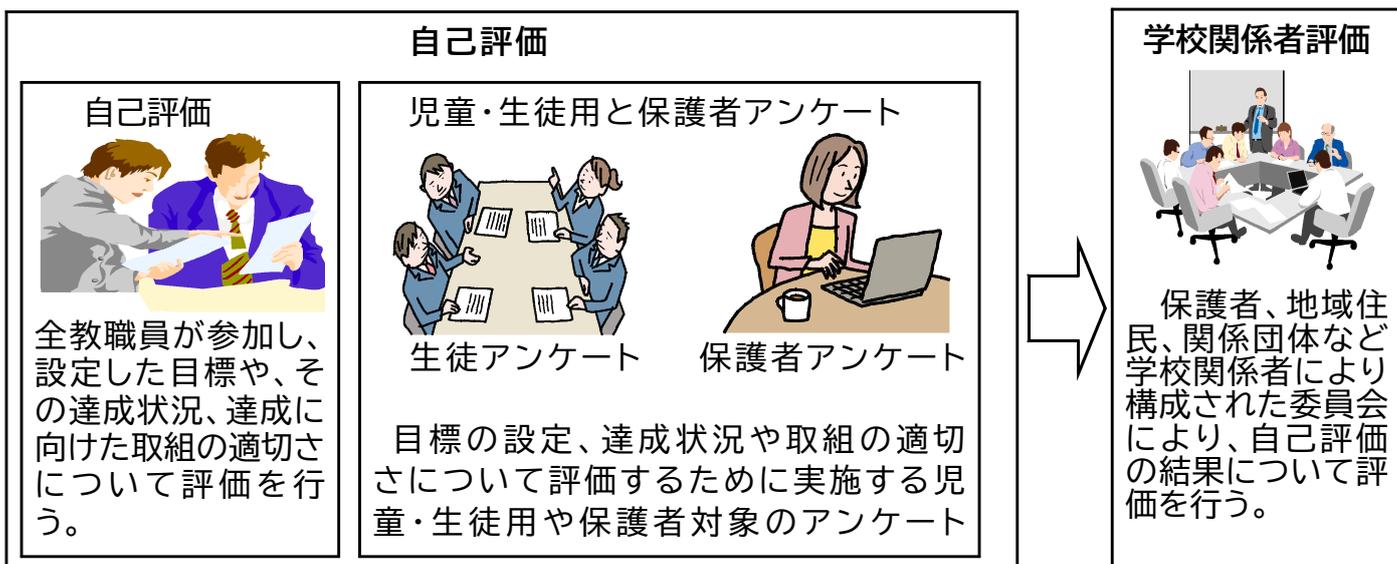
学校評価は、子どもたちがより良い教育を享受できるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展をめざすための取組です

■学校評価の目的 「学校評価ガイドライン」文部科学省より

学校評価の目的について

- ① 学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目標とすべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者・地域住民等からの理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを推進すること。
- ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

■学校評価の取組(例)を図で紹介します



京極町は、学校運営協議会の下で学校関係者評価を行っています。
次のページに、京極町各(小・中)学校の前期評価結果を掲載します。

【京極小学校自己評価結果】 ★学校教育目標：進んで心と体をきたえる子どもの育成

	目指す子ども像	自己評価	○成果 ●課題 ☆今後
まなび	自分で考え、表現し合って高め合う子	A	○楽しみながら取り組む学習 ●伝え合い、説明し合う学習 ○専科教員の活用 ○支援員のサポート ●家庭学習のさらなる定着 ☆ICT活用方法の工夫 ☆個別最適な学びの研修 ☆見通しを持った学習と個別の支援
こころ	お互いに認め合って協力できる子	B	○いじめの積極的な認知と対応 ○日常の声かけと客観的データの活用 ●家庭での読書週間 ☆日常的な情報交流、声かけ ☆あいさつ、返事の継続した指導
からだ	自分の体力に興味を持ち、高めようと取り組む子	B	○体育・休み時間の補充（体力テスト） ○成果発表場面の設定（運動会） ●正しい生活リズムと運動習慣 ☆生活リズムチェックシート ☆ノーゲームスマホデー

*自己評価の目安…A(十分である)B(おおむねよい)C(やや不十分)D(不十分)

【京極中学校自己評価結果】 ★学校教育目標：知恵をつないで創造する生徒の育成

	育成を目指す資質・能力 ☆当面の重点	自己評価	□考察 ◎改善策
知 恵	知識・技術を課題解決に生かす 問題発見・企画・遂行 ☆見通しを立てる ☆振り返りを次に生かす	B	□見通しや振り返りの意図や効果が生徒に十分伝わっていない。 ◎「振り返り通信」の意図的活用（10月） ◎教科内での振り返りの再指導 ◎積極的な他者参照で「振り返りの仕方」を身につけさせる。
つなぐ	知識や技能をつなげる 協働・コミュニケーション ☆自他の尊重 ☆思いを伝える	B	□お互いを気遣い協働的に活動する態度が育っている。 □相手に「伝える」ことを意識した発表や言動にまだ課題がある。 ◎「アウトプット」のより効果的な指導について研修を進める。 ◎各学級の「ミニ話合い活動」をより意図的に実施して、成果と課題を全体で共有し改善を図る。 ◎上記の取組を学級通信等で家庭に伝え、子どもの成長を保護者と共有する。
創 造	よりよいを創り出す 思考錯誤・イノベーション ☆豊かな発想で挑戦 ☆粘り強く取り組む	B	□否定的回答の生徒は「自信がない」に近い感覚と考える。 ◎道徳の授業で「自分なら」という視点で振り返りをさせる。特に、「生き方」という視点を大切にしていく。 ◎生徒の言動について、「話し方」や「相手意識」という視点で、積極的に評価・価値付けして、自信をつけさせていく。

自己評価

学校関係者評価は、10月16日各部会ごとに実施しています。



ほかほか祭り

多様性を大切に、
心を寄せ合って共に歩いていこう

ほかほかまつり実行委員会主催「笑顔あふれるほかほか祭り」が10月20日(日)開催されました。会場には、十五日会の協力によるラーメン販売で奮闘する中学校の教頭先生や、国際交流カフェでボランティアに励む中学生の姿を見ることができました。

